

大舞台で収穫 東京照準

パラ陸上 世界選手権400メートル&100メートル



男子400メートル（上肢障害）決勝でスタートする石田選手＝ドバイで（共同）

【ドバイ＝神谷円香】アラブ首長国連邦（UAE）のドバイで開かれているパラ陸上の世界選手権で、各務原市の石田選手（29）＝愛知学院大＝が400メートルと100メートルに出場し、海外勢と堂々と渡り合った。来年の東京パラリンピック代表に内定する四位以内には入れなかったが、400メートルは日本新記録で五位に。世界レベルを肌で感じて「モチベーションも大きく変わった」といい、収穫を得て世界での初挑戦を終えた。

石田選手＝各務原

左腕に機能障害がある石田選手は上肢障害のクラスで出場した。初戦は八日の400メートル予選。緊張したが、無事に通過し「競技を始めて間もない中で大舞台に立てて、すごく新鮮」と振り返る。期待感を持って臨んだ翌日の決勝は一転、悔しさが残るレースとなった。49秒44で自身の日本記録を0秒45更新したが、代表内定の四位にわずかに0秒13及ばなかった。

十日の100メートル予選は突破。十二日の準決勝は敗退した。一緒に走ったブラジルの選手が自分と0秒83差の世界新記録をたたき出し、トップ選手の速さを見せつけられた。それでも「本職でない100メートルで準決勝までこられた。自分をほめたい」と前向きだ。昨年六月、左肩の違和感から骨肉腫が分かり手術。高校総体に出場するほど打ち込んだ陸上を続けようと、愛知学院大に進んだばかりだった。左腕は不自由になったが、走り続けると決めた。

七月に岐阜県であったジャパンパラ陸上で400メートルと100メートルの日本記録を樹立し、新星として注目を集める。世界選手権で感じたのは「どの選手も障害を責めずに、大きな目標に向かって頑張っている」。来年四月までに世界ランキングを上げれば東京への道が見えてくる。今の目標は東京パラリンピック出場と、障害を負う前の自己記録を超えることだ。